

<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">国名</td> <td rowspan="2">イロイロ州地域活性化・LGU クラスタ開発プロジェクト</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">フィリピン</td> </tr> </table>	国名	イロイロ州地域活性化・LGU クラスタ開発プロジェクト	フィリピン
国名	イロイロ州地域活性化・LGU クラスタ開発プロジェクト		
フィリピン			

I 案件概要

プロジェクトの背景	<p>フィリピンでは、1991年に制定された地方自治法の下、住民への基本的な公共サービスの提供義務が地方自治体（LGU：Local Government Unit）に移管された。このような状況下で、都市圏の交通問題や沿岸資源の悪化といった各 LGU 単体では対応困難な開発課題に対処するため、近隣自治体の連合体である LGU クラスタが各地で自発的に形成されていた。</p> <p>イロイロ州及びギマラス州を含むイロイロ都市圏では、都市化が進んでいるが、不十分な交通管理の結果、イロイロ・ギマラス地域で交通渋滞が発生し、経済開発の妨げとなっていた。また、バナテ・バロタック湾では、沿岸の環境問題が深刻化しており、漁村資源の減少及び沿岸村落の貧困の増加を引き起こしていた。このような中、LGU クラスタであるイロイロ都市圏・ギマラス経済開発審議会（MIGEDC）は交通渋滞の解決に向けて、バナテ・バロタック湾資源管理評議会（BBBRMCI）は沿岸資源の課題の解決に向けて努力を行っていたが、LGU クラスタの能力では、これらの課題に十分に対応するには限りがあった。</p> <p>（備考）</p> <ul style="list-style-type: none"> イロイロ都市圏・ギマラス経済開発審議会（MIGEDC）の構成メンバーは、イロイロ市、サンタ・バルバラ町、サン・ミゲル町、オトン町、レガネス町、パピア町、ギマラス州の1州1市5町。 バナテ・バロタック湾資源管理評議会（BBBRMCI）の構成メンバーは、アニラオ町、バナテ町、バロタック・ヌエボ町、バロタック・ビエホ町の4町。 												
プロジェクトの目標	<p>本プロジェクトは、以下の2つのサブプロジェクトより構成される。</p> <ol style="list-style-type: none"> MIGEDC 地域における参加型都市交通管理サブプロジェクト（都市交通管理サブプロジェクト） バナテ湾・バロタック湾における持続的沿岸資源管理サブプロジェクト（沿岸資源管理サブプロジェクト） <p><都市交通管理サブプロジェクト></p> <ol style="list-style-type: none"> 上位目標：持続可能な交通管理がイロイロ都市圏・ギマラス地域で機能する。 プロジェクト目標：イロイロ都市圏・ギマラス地域における交通管理アクションアジェンダ（TMAA）が構成 LGU、中央政府機関、民間ステークホルダーの参加を得て策定される。 <p><沿岸資源管理サブプロジェクト></p> <ol style="list-style-type: none"> 上位目標：イロイロ州の持続可能な沿岸資源管理における LGU クラスタが機能する。 プロジェクト目標：イロイロ州バナテ湾・バロタック湾地域における LGU の連携による沿岸資源管理システムが強化される。 												
実施内容	<都市交通管理サブプロジェクト>		<p>1. プロジェクトサイト：イロイロ都市圏・ギマラス地域（イロイロ市、サンタ・バルバラ町、サン・ミゲル町、オトン町、レガネス町、パピア町、ギマラス州）</p> <p>2. 主な活動：①イロイロ都市圏・ギマラス地域の交通データの収集及び分析、②交通管理オプションの選定、③交通管理に関する社会実験の実施、④MIGEDC、構成 LGU 及び交通管理関係機関職員の研修</p> <p>3. 投入実績（上記活動を実施するための投入）</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">日本側</td> <td style="width: 50%;">相手国側</td> </tr> <tr> <td>1) 専門家派遣：7名</td> <td>1) カウンターパート配置：23名</td> </tr> <tr> <td>2) 研修員受入：なし</td> <td>2) 土地・施設提供：プロジェクト事務所</td> </tr> <tr> <td>3) 機材供与：コンピュータ、プリンター、ファクシミリ、GIS ソフト、GPS、社会実験用機材、バイク、プロジェクター、カメラ、携帯用ラジオ</td> <td>3) カウンターパート職員給与、研修費用</td> </tr> </table>			日本側	相手国側	1) 専門家派遣：7名	1) カウンターパート配置：23名	2) 研修員受入：なし	2) 土地・施設提供：プロジェクト事務所	3) 機材供与：コンピュータ、プリンター、ファクシミリ、GIS ソフト、GPS、社会実験用機材、バイク、プロジェクター、カメラ、携帯用ラジオ	3) カウンターパート職員給与、研修費用
	日本側	相手国側											
1) 専門家派遣：7名	1) カウンターパート配置：23名												
2) 研修員受入：なし	2) 土地・施設提供：プロジェクト事務所												
3) 機材供与：コンピュータ、プリンター、ファクシミリ、GIS ソフト、GPS、社会実験用機材、バイク、プロジェクター、カメラ、携帯用ラジオ	3) カウンターパート職員給与、研修費用												
<沿岸資源管理サブプロジェクト>		<p>1. プロジェクトサイト：バナテ湾およびバロタック湾地域（アニラオ町、バナテ町、バロタック・ヌエボ町、バロタック・ビエホ町）</p> <p>2. 主な活動：①包括的沿岸資源管理計画及び実施マニュアルの策定、②BBBRMCI 及び関連機関職員の研修、③川の清掃、マングローブ植林、人口漁礁の設置、漁業組合を通じた代替生計向上活動（漁具レンタル、イガイ・カキ・ティラピア養殖、食品加工）、パトロール及び取締り活動などの沿岸資源管理活動の実施、④環境教育</p> <p>3. 投入実績（上記活動を実施するための投入）</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">日本側</td> <td style="width: 50%;">相手国側</td> </tr> <tr> <td>1) 専門家派遣：6名</td> <td>1) カウンターパート配置：9名</td> </tr> <tr> <td>2) 研修員受入：1名</td> <td>2) 土地・施設提供：プロジェクト事務所及び研修センター</td> </tr> <tr> <td>3) 機材提供：コンピュータ、プリンター、その他事務機器、GPS、プロジェクター、カメラ、パトロール用ボート、調査用ボート、救命胴衣、双眼鏡、通信機器、SSB ラジオシステム（認可を受けた送受信機及び基地局）、冷蔵庫、加圧調理器などの食品加工機材、溶接機</td> <td>3) カウンターパート職員給与、研修費用</td> </tr> </table>			日本側	相手国側	1) 専門家派遣：6名	1) カウンターパート配置：9名	2) 研修員受入：1名	2) 土地・施設提供：プロジェクト事務所及び研修センター	3) 機材提供：コンピュータ、プリンター、その他事務機器、GPS、プロジェクター、カメラ、パトロール用ボート、調査用ボート、救命胴衣、双眼鏡、通信機器、SSB ラジオシステム（認可を受けた送受信機及び基地局）、冷蔵庫、加圧調理器などの食品加工機材、溶接機	3) カウンターパート職員給与、研修費用	
日本側	相手国側												
1) 専門家派遣：6名	1) カウンターパート配置：9名												
2) 研修員受入：1名	2) 土地・施設提供：プロジェクト事務所及び研修センター												
3) 機材提供：コンピュータ、プリンター、その他事務機器、GPS、プロジェクター、カメラ、パトロール用ボート、調査用ボート、救命胴衣、双眼鏡、通信機器、SSB ラジオシステム（認可を受けた送受信機及び基地局）、冷蔵庫、加圧調理器などの食品加工機材、溶接機	3) カウンターパート職員給与、研修費用												
事前評価年	2007年	協力期間	2007年10月～2010年10月	協力金額	294百万円								
相手国実施機関	<p><都市交通管理サブプロジェクト> イロイロ都市圏・ギマラス経済開発審議会（MIGEDC）</p> <p><沿岸資源管理サブプロジェクト> バナテ・バロタック湾資源管理評議会（BBBRMCI）</p>												
日本側協力機関	<p><都市交通管理サブプロジェクト> 株式会社 片平エンジニアリング・インターナショナル</p>												

II 評価結果

1 妥当性

本プロジェクトの実施は、事前評価時・プロジェクト完了時ともに、「中期開発計画（2004～2010年）」「国家開発計画（2011～2016）」に掲げられた「LGU クラスターの能力強化を含む地方政府の強化」というフィリピンの開発政策、「LGU クラスターの能力強化を通じたイロイロ州の交通管理及び沿岸資源管理の改善」という開発ニーズに十分に合致している。また、事前評価時の日本の対フィリピン国別援助計画（2004）と合致している。したがって、妥当性は高い。

2 有効性・インパクト

<都市交通管理サブプロジェクト>

本サブプロジェクトは、イロイロ都市圏・ギマラス地域の構成 LGU、中央政府機関、民間ステークホルダーの参加を得て、同地域の交通管理アクションアジェンダ（TMAA）を策定することを目指した。さらに構成 LGU がそれぞれの交通管理計画を策定する際に、TMAA がリファレンスとして活用され、イロイロ都市圏・ギマラス地域において LGU クラスターによる持続的な交通管理が機能することが期待されていた。

本サブプロジェクトのプロジェクト目標は、プロジェクト完了時には達成された。TMAA 最終版は、2010 年 8 月に MIGEDC プロジェクト管理事務局（PMO-MIGEDC）に正式に提出され、その内容が説明された。プロジェクト完了後、本サブプロジェクトの技術作業委員会（TWG）の機能は、既存の MIGEDC の技術作業委員会（MIGEDC-TWG）へ統合・継承された。

MIGEDC-TWG の会合は、毎月、構成 LGU の代表者や民間ステークホルダーなどの、プロジェクト実施時の関係者の大半が参加する形で、開催されている。しかしながら、イロイロ市議会が 2013 年に採択した「車両規制に関する条例（2013）」に依り、イロイロ市とその他の構成 LGU との間の課題が生じており、本サブプロジェクト完了以降、MIGEDC による TMAA の継続的な更新及び改善は行われていない。この条例はイロイロ市周辺自治体の公共交通車両が同市へ進入することを規制しており、構成 LGU を含むイロイロ市周辺自治体から同市へ通う通勤者や地元運送業者への社会的・経済的な影響を与えているとの批判が挙がっている。この問題は、構成 LGU の間で政治問題化しており、そのため TMAA の更新及び改善が中断している。ただし、この条例は TMAA の方針と一致しているため、MIGEDC-TWG では、構成 LGU との定期会合を含む公式・非公式のコミュニケーション・チャンネルを通じ、構成 LGU 及び地元政治家に対して条例の目的及び社会的便益を説明し、彼らの理解が得られるよう努力している。

本サブプロジェクトの上位目標は、事後評価時には一部達成された。TMAA は、世界銀行の支援により実施中の MIGEDC 対象地域をカバーする都市交通マスタープラン調査において、参照資料として活用されている。LGU レベルでは、TMAA は交通マップの作成、駐車エリアの特定、既存の交通関連条例の見直しのための参照先として活用されている。しかしながら、TMAA に基づく交通管理計画は、①イロイロ市及びオトン町を除く構成 LGU では、交通管理を専門とする人材及び担当部署が限られていること、②構成 LGU それぞれが異なる交通管理計画の策定の優先度を持っていること、③交通管理の計画づくり及び実施のための予算が限られていること、④政治的理由、などにより、未だ策定されていない。

<沿岸資源管理サブプロジェクト>

本サブプロジェクトは、イロイロ州のバナテ湾およびバロタック湾地域において、LGU の連携による沿岸資源管理システムの強化を目指した。そして、BBBRMCI の沿岸資源管理システムの知識及び技術がイロイロ州の他の LGU へ普及し、実行されることが期待された。

本サブプロジェクトのプロジェクト目標は、プロジェクト完了時には達成された。事業サイトでは、LGU 連携による 6 つの沿岸資源管理活動が行われた。BBBRMCI、LGU、技術作業委員会（TWG）の間の協力関係が、BBBRMCI と TWG メンバー団体[構成 LGU のバランガイ漁業水産資源評議会（BFARMC）、NGO、漁民団体など]との間で 2010 年 2 月に締結された覚書を通じて再定義され、強化された。包括的沿岸資源管理計画、3 カ年行動計画（2011～2013 年）並びに資源管理活動のための運営マニュアルが作成され、BBBRMCI に採用された。

プロジェクト完了後、BBBRMCI は上記の包括的沿岸資源管理計画及び 3 カ年行動計画に沿って活動を実行している。しかしながら、アニラオ町及びバロタック・ヌエボ町の市長は、2013 年に就任したバナテ町市長が主導する BBRMCI の運営に対して異なる立場にあり、また構成 LGU の間で政治的対立があるため、両町は 2013 年以降、BBBRMCI の活動への参加及び BBRMCI 事務局への職員の派遣を停止している。その結果、バナテ町及びバロタック・ピエホ町の 2 町のみが BBRMCI の実質的な活動メンバーであり、本事後評価時点では、BBBRMCI の活動としての沿岸資源管理活動は、これら 2 町の参加により継続して行われている²。例えば、パトロール、人工漁礁などの適正な漁業方法、イガイ・カキの養殖、村落住民と連携したマングローブ植林、水中監視などは、継続して実施されている。それとは対照的に、原材料価格の上昇及び少ない販売量のため、魚加工などの BBRMCI の生計向上活動は、活発ではなく、そのため、BBBRMCI が整備した魚加工関連施設は使われていない。また、適切な商品企画及びマーケティング計画の不足により漁業組合活動も活発ではない。しかしながら、BBBRMCI は上記の問題に対して効果的な対策を講じられておらず、この背景には、BBBRMCI の構成 LGU が 2013 年の台風（ハイヤン）による被災からの復興支援を優先していることがある³。BBBRMCI 事務局の全職員は、構成 LGU（町）とイロイロ州政府、中央政府機関、NGO との間に求められる調整作業を行うために動員されている。さらに、BBBRMCI は 2013～2016 年の行動計画を策定しておらず、包括的沿岸資源管理計画のためのマスタープランの更新も行っていない。この原因の一部として、上述の台風被害の影響や、参加型の検討・計画を推進するための人材、財源が不足していることが挙げられる。BBBRMCI への参加を停止しているバロタック・ヌエボ町及びアニラオ町については、個別に町レベルの沿岸資源管理活動を行っている。

本サブプロジェクトの上位目標は、事後評価時には一部達成された。イロイロ州の他の LGU の参加のもと、沿岸資源管理システムの経験及びグッド・プラクティスを普及するための会合が 5 回開催された。本事後評価時、箱型人工漁礁の設置や海洋保護区におけるワイタンガザミの養殖など本サブプロジェクトの好事例が少なくとも 12 の町で実践されていた。しかしながら、これら好事例の実践は、個々の町が一部の沿岸資源管理活動に関する技能、技術、方法を導入するに留まっており、本サブプロジェクトの核となる LGU クラスターを土台とする沿岸資源管理システムの確立という点については、他の LGU では

¹ BBRMCI 事務局、LGU、TWG の間の協力関係として、財源や人材といったリソースの共同管理、漁業関連条例の調和、海洋保護区に関する共同取締りの実施などが挙げられる。

² 本事後評価時点において、ダマンガス町など他の LGU が BBRMCI へ新規加入の意思を表明していた。

³ 例えば、被災した建物（役場事務所、市場に向かう農道、校舎、プライマリ・ヘルスケア提供施設など）の修復を行っている。

十分には実践されていないと言える。

本サブプロジェクトで導入した技術や手法の活用により、漁獲高の増加や受益者の収入の増加などの経済的インパクトが一定程度認められた。例えば、アニラオ町では、2011年以降、本サブプロジェクトで改良された刺し網漁法による漁獲高の増加、魚加工グループのエビ加工食品の販売による追加的収入などが見られた。2013年11月にバナテ湾およびバロタック湾地域が台風被害を受けるまでは、バナテ町のマングローブ栽培グループは、マングローブの苗木の販売により追加的収入を得ていた。加えて、アニラオ町の漁業組合及び魚加工グループへのインタビュー結果によると、LGUの連携による海洋保護区活動に近隣町や政府機関が目に見える形で参加していることで、バラングイレベルの小規模漁業グループが自信を持って不法漁民の取締りや不法行為の通報などを行えるようになったとのことであった。バロタック・ヌエボ町及びアニラオ町はBBBRMCIの活動へ積極的に関わってはいないが、両町の漁民や地元グループは、協同組合を通じた魚加工や村落での小規模事業活動など、様々な生計向上活動を継続して行っており、BBBRMCIの活動から学んだ技能、技術、ノウハウも活用している。

自然環境への負の影響は認められず、土地収用及び住民移転も発生していない。

よって、本プロジェクトの有効性/インパクトは中程度である。

3 効率性

本プロジェクトは、協力期間は計画通りであったものの（計画比：100%）、沿岸資源管理サブプロジェクトにおいて、魚加工技術の導入およびそれに関係する研修など、漁民及び関係者の代替的生計向上活動が新たに追加されたため、協力金額は大幅に計画を上回った（計画比:155%）。よって、本プロジェクトの効率性は中程度である。

4 持続性

政策面では、既存のフィリピン政府の政策及び法的枠組みにおいて、LGU クラスターの能力開発は引き続き優先方針となっている。また、都市交通管理及び沿岸資源管理は、それぞれのセクター開発計画において優先課題とされている。

<都市交通管理サブプロジェクト>

体制面では、MIGEDC の組織体制には変化はなく、新たにカバツナ町がメンバーとして加入した。イロイロ州及びギマラス州は、他の構成 LGU と同格のメンバーとして MIGEDC に参加している⁴。MIGEDC 事務局職員の大半は、構成 LGU から派遣された地方自治体職員である。彼らは本サブプロジェクトで技術移転を受け、事務局職員として交通管理の業務に従事しているが、事務局職員の数については、不足している。

技術面では、技術作業委員会（TWG）のメンバー及び MIGEDC 事務局職員の都市交通計画及び交通管理に係る研修機会は非常に限られており、その結果、彼らが業務を行う際に、意思疎通が十分にできない、共通の理解が得られないなどの問題を引き起こしている。このため、継続的な技術及び知識の更新が必要となっている。一方、MIGEDC 事務局職員が日常業務を行うための技術能力については、概ね適切である。

財務面については、構成 LGU 及びイロイロ州から支払われる MIGEDC の活動を継続するための分担金は、非常に限られている。一部の構成 LGU は、財務上の制約により MIGEDC への年間分担金の支払いが滞っている。また別の LGU では、選挙による首長の交代の結果、交通管理に対する優先度が低下し、MIGEDC に対する分担金を減額した例もあった。その代わりに、MIGEDC ではメンバーからの分担金以外の財政支援（世銀、USAID 等）を得てはいるものの、構成 LGU において活動するために必要な費用を全てカバーできておらず、その金額は非常に少ないと言える。

<沿岸資源管理サブプロジェクト>

体制面では、アニラオ町及びバロタック・ヌエボ町の2町は、主に政治的な理由のため、2013年以降はBBBRMCIへの参加を中断している。カウンターパートとして本サブプロジェクトに従事したバナテ町及びバロタック・ビエホ町職員は、引き続き沿岸資源管理の業務に従事している。しかし、BBBRMCIの日常業務を担当するBBBRMCIの職員数は不足している。一方、BBBRMCI構成LGUはBBBRMCIが主導する沿岸資源管理活動とは別に、各LGU独自でも沿岸資源管理活動を行っている。しかし、これら個別のLGUの活動の中から生まれた好事例を、構成LGU間で共有する仕組みはBBBRMCIには存在していない。イロイロ州政府は、LGUクラスターによる沿岸資源管理という構想を支援する立場にある。本事後評価において、イロイロ州政府は、イロイロ州内や同州を含むビサヤス地方の他州に本サブプロジェクトの経験を普及させるための会合を開催するとともに、BBBRMCIに対して継続的な財政支援を行っている。

技術面については、予算上の制約によりBBBRMCI主催による研修は行われていないが、BBBRMCI職員及び構成LGU職員は、時々、JICAを含むドナー支援のプロジェクトで行われるワークショップや研修へ参加する機会を与えられている。手引書や運用マニュアルは、バナテ町及びバロタック・ビエホ町の不法漁業の取締りや違反者に対する行政・刑事手続きの際の参照資料として引き続き活用されている。

財務面については、バナテ町、バロタック・ビエホ町、及びイロイロ州からの分担金は、本格的なBBBRMCIの活動を実施する上では、不十分である。一方、上記の2町では、町レベルで個別に沿岸資源管理活動を行う限りにおいては、その活動予算は、十分に確保されている。

以上より、持続性については、体制面、技術面、財務面に一部課題が認められることから、本プロジェクトによって発現した効果の持続性は中程度といえる。

5 総合評価

<都市交通管理サブプロジェクト>本サブプロジェクトでは、プロジェクト目標を達成し、上位目標については一部達成した。本事後評価時点においては、人材及び予算不足、構成 LGU 間の交通管理計画策定に対する優先度の違い、政治的理由、などにより、TMAA に基づく交通管理計画は未だ策定されていない。持続性については、MIGEDC 事務局職員の不足、研修機会及び技術能力の不足、財源不足など、都市交通計画及び交通管理のための活動を継続する上で、体制面、技術面、財務面に一部問題が認められる。

<沿岸資源管理サブプロジェクト>本サブプロジェクトでは、プロジェクト目標を達成し、上位目標については一部達成した。本事後評価時点においては、BBBRMCI は包括的沿岸資源管理計画を実施しているものの、構成 LGU の数が当初の 4 町から 2

⁴ フィリピンの地方行政制度上、イロイロ市は独立構成市に指定されイロイロ州と同等の権限を有する。一方、沿岸資源管理サブプロジェクトの BBBRMCI 構成 LGU である各町（municipality）は、イロイロ州政府の管轄下にある。

町に減少している。持続性については、BBBRMCI 事務局職員の不足、財源不足など BBRMCI の活動を継続して行う上で、体制面、財務面に一部問題が認められる。

従って、本プロジェクトの有効性/インパクト及び本プロジェクトによって発現した効果の持続性は中程度と言える。効率性は、事業費が計画を大幅に上回ったことから、中程度である。

以上より、本プロジェクトは一部課題があると評価される。

III 教訓・提言

実施機関への提言：

MIGEDC への提言

- 1) TMAA の更新を促進するためにはイロイロ市の車両規制に関する条例に係る課題を解決する必要がある。MIGEDC 事務局は、条例の実施状況のモニタリング、課題の分析、並びにこの条例が構成 LGU にとって受入可能なものとなるようマイナスの影響に対する緩和策を検討することなど、主導的に行うことが求められる。このためには、MIGEDC 事務局の文書作成能力及び分析能力の強化を行う必要がある。
- 2) MIGEDC の TWG メンバー及び事務局職員の研修機会を増やすために、メトロマニラ、メトロセブ、メトロダバオなど都市交通管理に実績のある他の LGU クラスターとの協力関係を促進すると同時に、交通管理に係る研究機関や研修機関との連携を提案する。例えば、メトロマニラ (LGU クラスター) の構成 LGU であるマカティ市は、イロイロ市と姉妹都市関係にあることから、情報交換、LGU クラスターによる交通管理の好事例の相互学習、共同研修プログラムの実施などを協力して実施するなど、マカティ市と連携した MIGEDC 職員の能力強化の可能性について、検討することを提言する。

BBBRMCI への提言

- 1) 個別 LGU の沿岸資源管理活動の中から生まれた好事例を、構成 LGU 全体で共有するフィードバック機能を BBRMCI として確立することを提案する。このことは、本サブプロジェクトの経験及び好事例をイロイロ州の他の LGU に広めることに役立つだけでなく、BBBRMCI の能力や活動領域の拡大にも貢献するという相乗効果も期待できる。

イロイロ州政府への提言

- 1) MIGEDC の構成 LGU であるイロイロ州政府は、MIGEDC の交通管理システムの改善において一層、積極的な役割を果たすとともに、MIGEDC に対する財政支援を引き続き行うべきである。
- 2) LGU クラスターによる沿岸資源管理の有効性を確保するため、イロイロ州政府は、定期的なモニタリング及び構成 LGU 間の調整、また BBRMCI に対する分担金の増額など、BBBRMCI の運営への関与を強めるべきである。

JICA への教訓

- 1) 原則として、異なる性格を持つサブプロジェクトは、個別プロジェクトとして案件形成し、実施すべきである。本評価対象プロジェクトは、二つのサブプロジェクトから構成されていたが、各サブプロジェクトは、それぞれ異なる開発課題やセクターを対象としており、一つのプロジェクトとしての機能的な結びつきがなかった。具体的には、本プロジェクトのプロジェクト・デザイン・マトリックス (PDM) では、一つのプロジェクトとしての目標、つまり、二つのサブプロジェクトが共通して目指すべきプロジェクト目標や上位目標が設定されていなかった。その結果、本事後評価では、一つのプロジェクトとして何が達成されたかについて、二つのサブプロジェクトを包括した説明を行うことが困難であった。
- 2) 効果的かつ持続的な沿岸資源管理システムの確立のためには、主導勢力、反対勢力、民間セクターなど全てのステークホルダーが、プロジェクトの計画に参画すべきである。沿岸資源管理サブプロジェクトの完了後、沿岸資源管理活動は個別 LGU や民間グループによって継続して行われているものの、構成 LGU による BBRMCI の共同運営については、LGU 間の利害の対立の問題もあり、問題が生じている。このような場合、全てのステークホルダーが調整に参画できるメカニズムがあれば、構成メンバー間の対立のモニタリングによる早期発見と最小化を行い、構成メンバーの協働を妨げないようにすることができたかもしれない。



<都市交通管理サブプロジェクト>
交通警察及び交通標識



<沿岸資源管理サブプロジェクト>
改善されたバナテ湾の海草及び魚類生息環境